

風土記の丘の花だより¹⁶⁰

今、そしてこれから見られる植物(2022年11月12日)

朝は涼しいを通り越して寒いくらいですが、歩いていると汗ばんできます。体調管理に気をくばりながら、お散歩を楽しんでください。センブリが咲いています。去年



多かった前山A23号墳では少なく、去年もたくさん咲いた同99号墳では株の大小合わせて20株ほどが咲いています。よく観察すると、株によって花びらの数が違うことが分かります。標準は5枚でしょうが、どう

いう訳か、多い少ないがあるんですね。これも個性というのでしょうか。



ヤツデの花も咲いています。これは小早川家の上で撮ったものです。ヤツデの花はちょっと複雑で、花びらのように見えているのが両性花、下の方の丸いのは、後で咲く雄花のつぼみです。身近な木ですが、花はとてもややこしいのです。



ハゼノキが赤く色づいて、とてもきれいです。どこにでも勝手に生え、華やかな花も咲かず、かぶれるので、余り喜ばれない木ですが、この時期の紅葉は見事です。童謡「小さい秋みつけた」では「ハゼの葉赤くて入り日色」と歌われています。実にうまく表現していますね。



コマユミに赤い実がなっています。細い柄でぶらさがるようになっていて、ゆらゆらしています。ニシキギという木があります。枝にコルク質の翼が付いているユニークな木ですが、その翼のないのがこのコマユミと言われています。確かに実も葉もよく似ていますね。

松下